



留学を志した経緯

1年生の時のタイ・シンガポール海外研修が私の初めての海外渡航でした。タイではPBLをする中で、現地ですぐにできた友達と家族や日本のことを深く自分の言葉で会話したかったのですが、自分の実力が及ばず大変後悔しました。そして、2年生では韓国で行われたEnglish Boot Campに参加し、ネイティブの外国人講師と現地学生と一緒に1週間かけて実用的な英語合宿を経験しました。その中でも特に印象に残っていたのは、研修中に訪れた板門店です。日本から一番近い外国であるはずなのに、こんなにも深刻な朝鮮半島の問題をまったく知らなかった自分が恥ずかしかったです。それと同時に、自分の知らない世界を知りたいと思う気持ちが大きくなりました。しかし、私の周りには私の知らない世界を教えてくれる環境はありませんでした。ならば、韓国に行って自分の目で確かめよう！と思ったのが今回の韓国への留学のきっかけとして一番大きい出来事でした。



韓国での生活

嶺南大学校は韓国の大邱という場所にあり、ソウル、釜山に続く第三の都市です。また、大邱はカフェが多い町として有名で、韓国中にあるカフェから個人経営のカフェ、夜遅くまで営業している店もあります。テスト週間はカフェにこもって長時間勉強するのが定番でした。日本ではカフェは早くに閉まりますし、回転率のことから勉強できる場所とは言い難いので、日本にもコーヒーを飲みながら勉強ができる場所ができるといいですね。



食事に関しては基本的に辛いものが多く、価格もソウルや釜山に比べれば低く、一食600円前後が一般的です。辛いものは多いですが同じくらい甘いものも多く、韓国では辛い→甘

い→辛い→甘いサイクルで食べるのがおいしいとされています。確かに、チゲ鍋を食べるとアイスが食べたくなり、それを食べると辛いラーメンが食べたくなりました。

生活スタイルで日本と違うところは、まず洗濯機に温水機能があり、ほとんど部屋干し（ベランダが室内にある）をします。水質の違いや黄砂が飛んでくることからこの違いが生まれています。また、韓国の店は基本的に深夜まで開店しているのですが、そのかわりに朝の開店は11時ごろと遅いので必然的に行動をする時間帯は昼頃から深夜と日本より遅めになります。

韓国のファッションは日本と似ていて、みんな流行に敏感です。価格帯は日本より安いものが多く1000円程度で買える服が多くあり、また、ブランドなどにこだわる人はあまりいないので、安いノーブランドの服をかわいく着こなすのが韓国流です。スポーツメーカーについてはアディダスが主流でしたが、いわゆる偽物も普通に商店街で売られています。偽物かどうかは重要ではなくパッと見てブランドに見えることが重要らしいので購入する人も多いそうです。

韓国に着いてから困ったことは、外国人登録をした後、外国人登録カードが発行されるまで2か月かかったことです。私の滞在期間は約4ヶ月で、外国人登録カードが届いた時点ではすでに折り返し地点でした。外国人は、外国人登録カードがないと携帯の契約もSIMカードも購入することができないため外出中はネットワーク環境がなく、大変不便でした。また、韓国には現金20万程度とクレジットカードをもっていきましたが、クレジットカードを普段使わない私は上限があることを知らず、締日と支払日が離れていることからクレジットカードが使えないことが多々ありました。幸いネットで上限を上げることができましたが、カード会社によって注意が必要です。また現金がなくなった場合、日本から国際送金という形で送ってもらうことはできますが、ドルで送られるので二重で手数料がかかるうえに、本人受け取りしかできないのでお勧めできません。お金のことは生活する中で大きな不安になるので、事前によく調べて、クレジットカードは2枚、現金はレートによって得することもあるので多めに持っていくことをおすすめします。

韓国に着いてすぐにチュソクという日本というお盆の期間があり、今年は週末も重なったことから10日間の連休がありました。私はその期間に東京に遊びに行きました。その際には、外国人として少し韓国で過ごした後だったので日本



の発展度合いや観光地として他国より成熟していることをより感じる事ができました。留学生の多くも日本へ旅行しており、みんな日本はサービスも素晴らしいし、文化の見せ方も上手でこんなに観光しやすい国はないよ！とほめてくれ、私も日本って素晴らしい国だ、世界中から期待されている国だと実感する事ができました。チュソクの間は韓国人はみんな地元に戻るので、ソウルなどに行ったとしてもお店はほとんど開いていません。おまけに交通渋滞で韓国中がひっくり返っているので、韓国に行く際は地元の祭事にも注意していくことをお勧めします。



そのほか、勉強の合間にソウル、釜山、大邱や慶州（韓国の京都）を観光しました。ソウルは伝統的なお城や現代的なショッピング街など新旧が入り混じる場所がたくさんあり、二泊三日では足りないくらい見どころがありました。釜山はソウルとは違い、より韓国らしい大きな市場や魚市場もあり、大邱では食べられない新鮮な魚を食べ、伝統のある大きな市場を体験する事ができました。大邱には海がないので、生粋の高知県民の私は久しぶりに海が見えて安心したのを覚えています。また、大邱には有名な歌手を讃えたキムグァンソク路という場所があり、壁中に絵が描かれていて写真を撮る場所がたくさんありました。韓国人は写真を自分で撮ってSNSにアップすることを日常としているので、いい写真を撮れる場所が韓国にはたくさんあります。その文化は近年日本にも浸透しており、文化の交わりを感じました。また観光地それぞれに美味しいものがあり、食の楽しみも増えました。

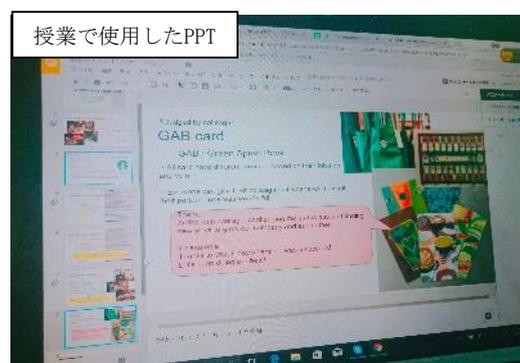


学校生活

私が嶺南大学校で受講したものは、韓国語（英語で学ぶもの）、英語のコミュニケーション、経済学と経営学、そして朝鮮半島の南北統合問題の計5つでした。

韓国語は、文法が日本語ととても似ているので日本人は理解するのも早かったですが、やはりヨーロッパの学生たちは理解するのが難しそうでした。日常生活や現地の文化を知るうえで役に立つ場面が多かったですし、韓国語を知っていることで友達も増えました。

英語のコミュニケーションの授業では、2週間に1度毎回違う少人数グループでの発表があり、少ない語彙力をどう使って分かりやすく伝えるか、見やすいプレゼンテーションシートをどう作るかなど深く考える事ができましたし、他の留学生の素晴らしいスキルなど見習う事が多かったです。



経済学と経営学の授業では、本学で勉強してきた知識が大いに発揮されたものでありました。クラスの中には物理学やファッションなど様々なジャンルの勉強をしている留学生が多い中で、出てくる用語や行っている作業の目的などを理解したうえでのぞむことができるというアドバンテージがありました。しかし、本学の授業と全く同じというわけではなく、アジア経済やアジア文化に馴染む経営戦略を考え、歴史から読み取れる展望などの分析を留学生と一緒にできることは広い視点を手に入れることができる大変貴重な経験でした。



キンパブ

朝鮮半島の南北問題の授業では、これまでの歴史学習、ドイツや中国などのケーススタディを通して朝鮮半島や世界にとっていい選択は何かを模索しました。この授業に正解はなく、常に日本の一人、世界の一人としてなにが最良であるか考えさせられました。授業の中ではスポーツなどの政治面ではなく文化面での交流から統合をしてはどうかという意見もあり、その時はみんな笑いながらそんなことできたらいいねと話していたのですが、2018年の冬季オリンピックではそれが現実となり私自身も驚きました。日本語でみるマスメディア等ではネガティブにとらえられることも多いですが、日本だけの言い分ではなく、英語で学習する中で、世界はどうとらえているのかという点にも注目できるようになったことは物事を多角的に捉えるという能力を大きく飛躍させてくれました。

サムギョブサルと焼酎



授業外の時間は、友達と市場に行って屋台でチヂミやキンパブという韓国の太巻きを食べたり、地下鉄に30分程揺られて町までごはんやショッピングに行ったり、夜中にチキンのデリバリーを頼んで、まるで韓国人のような遊びを楽しみました。

留学をして成長したこと

まずは韓国を選んだ理由でもある、朝鮮半島の南北問題の知識が深まり、英語を使って様々なメディアから情報収集し自分で考えることができるようになりました。日本に帰国してから自分でも驚くほど新聞が読めるようになり、情報を鵜呑みにするのではなく、自分で取捨選択して自分なりの意見を持てるようになったことは今後の社会人生活において必要なスキルであると思います。

ハロウィンに仮装するルームメイトと友達



また、外国で暮らすことの楽しみやストレスを実感することができました。ベトナム人は約束の時間に絶対来ないし、フランス人は授業中ずっとおしゃべりしていて、メキシコ人は授業を受けながらリンゴを丸かじりします。各国から留学生が来ており、授業を受けるスタイルや生活スタイルも全く違う中で自分の常識が世界では当たり前ではないことを実感しました。それは驚きや面白さでも

あり、裏を返せばストレスでもあります。長期で滞在するほどにその積み重なりは増え、ホームシックになることもありました。ですが、家族と電話をすることで日々のうつぶんを話すはけ口にもなり、初めて家族と離れて暮らす中でその存在の大きさに気づかされました。

そして、その中で自分がどうポジティブに行動するか考えることで、結果的に友達も増えました。特に日本人、中国人、台湾人、マレーシア人はみんな仲良くなり、帰国する直前までごはんに行き、言語交換をしました。同じ文化から派生したそれぞれの文化や言語は共通するものが多く、やはり気持ちがつながりやすいです。韓国人の友達とは英語で話すこともありました。友達に助けてもらいながら韓国語で話すことがほとんどでした。芽衣と韓国語で話したいよ！といってもらえた時は、韓国語の勉強を頑張ろうと思えた瞬間でした。

仲良し4か国



最後に

留学に行きたいと思う全ての人に、もうすでに留学のチャンスが与えられていると思います。交換留学以外にも留学に行く手段はたくさんありますが、自分の目的と留学のための手段がうまくマッチすればいつでも行くことができます。留学はそんなに気取ったものでもありませんし、行ったからといって他の人より偉いわけでもありません。ただ自分が行く必要があると感じた人が行くだけで、高知工科大学もそんな学生を全力でサポートしてください。普段の生活よりしんどい泣きそうになることもありますが、それ以上に友達と過ごした楽しい思い出や学業の実りを感じられます。たくさんの学生にそんなかけがえのない経験が訪れることを願っています。